

A21b 流星電波観測プロジェクトによる国内の取り組み

小川宏 (筑波大), 流星電波観測プロジェクト (85名)

しし座流星群に向けて、天候にも左右されず、昼夜一貫して観測できる流星電波観測は、流星活動を常に監視する上で大きな役割を果たす。ところが、これまで、流星電波観測者は、様々な場所で交流は行われているものの、まだ交流があまりない観測者も多数いた。さらに、各観測データは、一ヶ所にまとめられてはおらず、研究する際も各観測者にその都度問い合わせる必要性があった。そこで、流星電波観測プロジェクトでは、国内の流星電波観測者が集い、そしてしし座流星群の観測を行った。観測報告は国内76ヶ所81データに及んだ。これらの観測結果は、プロジェクト参加者全員の共有財産である。そして、一ヶ所のサーバーに置くことによって、様々な研究課題において、データをいつでも自由に使用することが可能となった。また、筑波大の白川友紀氏の協力を得て、10ヶ所へ同じ観測機器を配布し、同一機材による観測を開始した。現在は、このプロジェクトを引き継ぎ、流星電波観測における流星活動の観測を行うネットワーク (AMRO-NET) として交流が続いている。そして先ほどの同機材の10ヶ所のデータや、各地から寄せられるデータを用いて、これまで、データ数や観測者数が少なかったために行うことができなかった、各観測地の補正値を、このプロジェクトより定める試みを進めている。今後、流星電波観測ならびに流星活動の研究を行っていくうえで、AMRO-NET による、流星電波観測の集約されたデータと、そのデータが共有されたスペースが有効に利用されるよう、ネットの運営を行っていきたい。